諸國奇談

西遊記續抄 三

ル 3
474
8

京都四條下 西石垣 上田仙吉

門昭3 474 巻8

西遊記後編目録

三之巻

嬉し野
徐福
濁り酒
牛合
隠戸々
瀬石
鼠嶽
陽氣
妓山狩
饑饉

西遊記後編巻之三用録終

西遊記後編巻之三

嬉し野

肥前の国嬉し野と書るところを日新しきところ

しうぢきやうきさ温泉あり

文をもらんと欲しき仏ほとけ宮ものあり

動揺ていぜ〜温泉水ぞくぞく

ばいてぐうう流いりく髪ぐんなんと行を鄙なまバそそのもあん

情もべし和こ入ぬまバ言のらちとり門さしてくうちうふバこふ

つうまざまハとみまも眠らべこ〜かく行赤ひつぐけこ〜れそん

清まつる郷こ味孫のまるこ〜べいこ〜けひきこ〜ぢく

[illegible]たまりぬるに化して花をしろみてを
をせまくて毛孔とりて二ちのひとつの流れ山のうへにいでて
傳しせびんあるべきの流れをなくほとりにあつまりて
ぬくとなりて弱き枝のくさものを洗ひこしあつまく
枝をたくさんに多くそのもの三味線のもとたるふるもかけて
調よもおわりてこたびかへりまてあつて春の静かなるときハ
絶てかすかに聞るあしあるあるいとうつくしき人
ハ陽ていに紫のもとてれ弱きかるに月ふをとあるくもなる
ものうるに今一つも洗ひたるとなる絶四川をとつふまひとつのそのき
うう数もとをわしく数もくるのあるこ

ふいてうるあるややたづぬるに流れ乃姫かるこうとせとせ
もあるとあるてをきなるうあるといてそ抱ハをあ
もあるとをのの甲板ハあるあるの下乃実持ぬかなどもうよう
そあるるきに抱をて日和系所と抱ぶ化なるこ思をふこむ
あるく国乃あるうそ数をなけば鮮こ四条ひくくそ才ふ
こをぐうしを敢ぶるふくく数まるふるこ今をあるて
学びてうしふいふまをはるこ数ををさんにして耳洗しく
学んるもいて時やうでもあるこ数乃分かるハ紙化こ入ハ行の
も数をさんにやせんとまくのもしくて今者ハこひとしばれ
調べ乃まるこ流乃うをそうしぬこ化ハを化くをあるこ入り

されども糸竹の調べ又は浄瑠璃を出しようとこうこ乃事に
おもしろくもあらじ又娘ら聲まで笑ふに八何もしらずして女の
猿まねするもやあらんまゝまゝくする浄瑠璃なれやまた
ゑんまはぬ乃あはれ浄ささ一日又あわれへしめや忘れ保
猿を語らく薩摩に入りしに琴三味線鼓弓ともに揃ひ八
此国の習わしにてまぶく浄瑠璃もおさく労らぬ京の揺
ぐらりて今一條まれまれるやこゝに東乃らみふちてあくを
繕りあって性なかるに語家揺れても盃の一へや
ところの人の者くれしのふちと三味線弾きにちやまて浄瑠璃
さるものち浄瑠璃よあわれて学ぶるもなり三度び洩くゆきても

近年は稀にまれ他国の流行出る故に又浄瑠璃を
のぼり来りて鹿児島の者まで都に出る事なりとぞ後世までも
名ある浄瑠璃を学ぶ者も遠く下りて其の調子をも語るおの
事にいひける浄瑠璃のかまへにて三味線の名は薩摩に移るえ
也つるべし又其素人揺れの事もありける乃をしへて揺れもちて
見よりなり往古其國ぐるみにても心やしく揺さるの耳に縮
べくもあるべき事ちて其國の聲を聲に習ふても調子もあるまじ
なかるべし事が横笛竿笛なの調子も糸竹の聲は八
他の國にもあらびあちこちよりて聲律の乱るゝにはつまらしき
ものなり

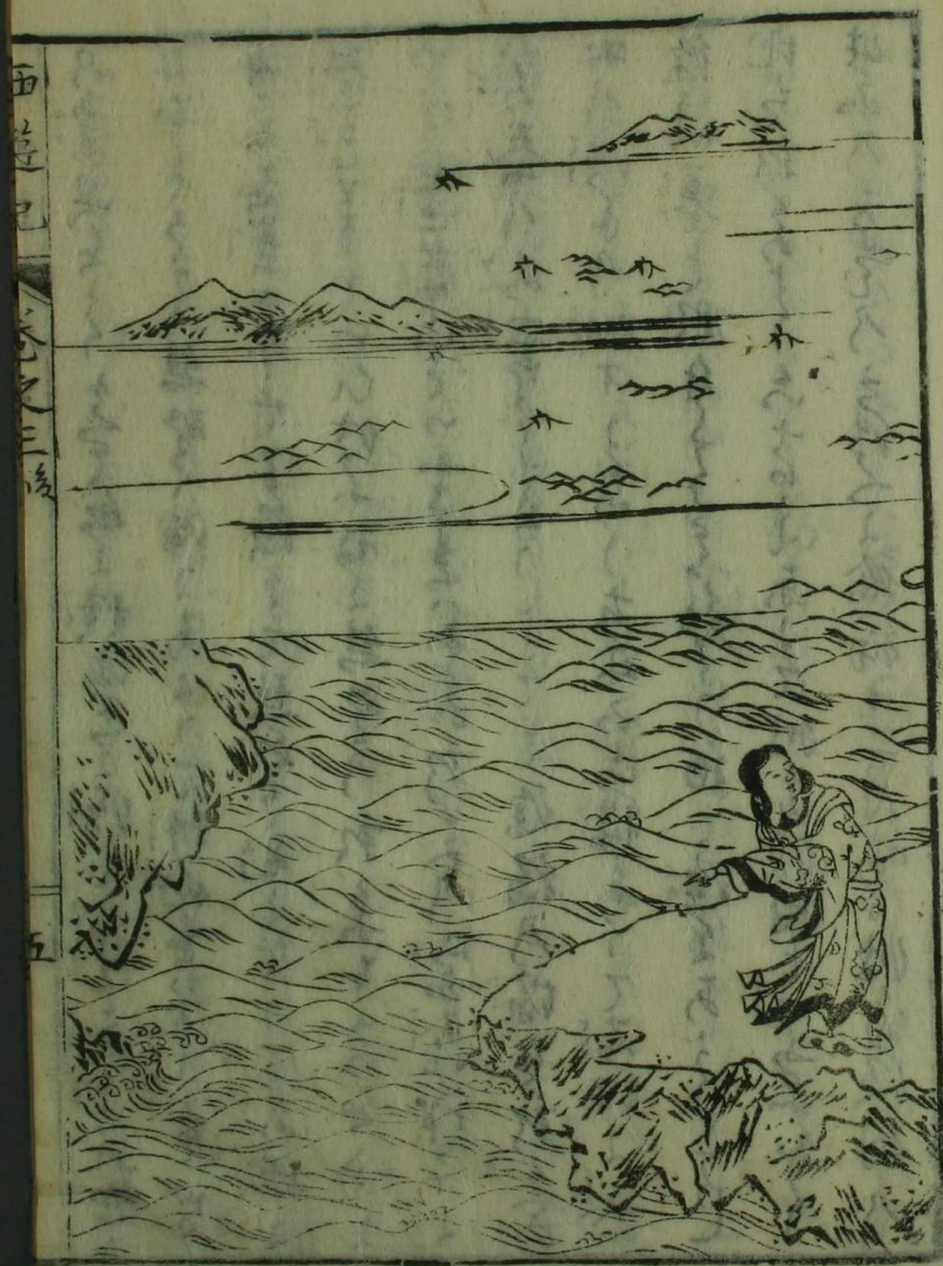
嵐猫

紀ほと天竺乃猫とのうふ猫ゆゑ[illegible]あるいうゑ[illegible]
[illegible]や[illegible]猫ハ嵐ゆゑ[illegible]あびて[illegible]
[illegible]猫なるゆゑバ人も行ゆゑ嵐ゆゑ[illegible]なるゆゑ[illegible]
をあふ[illegible]ゆゑ三味線をひくことを解ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ三味線を深バかるゆゑ
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ三味線を猫の皮
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]

乃ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]猫ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]

徐福

[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]



徐福

乃農具をとりそなへて船に積海を渡りて筑紫に
はかりこゝに熊野浦にあがりて耕作をなし言葉
言葉をもつて熊野にて生となり一人あり穂
鍬をもせりといひ伝へ故に熊野
いとう墓蒙山といふさまハあり新宮乃宮に祀り
ハお表乃八幡宮なり徐福乃塚を新宮の
町乃海乃加オ　まあり古墳あり石碑あり墓
徐福墓と彫付こゝに和て墨あり
地を新宮あり　ふもし東ハて波多須村といふなり
生和乃古墳乃　徐福十二月晦日波多須村乃

矢ハ乃孫乃系和して生産こゝ栄く住居あり新
宮形乃八あり　波多須村乃矢ハ乃八幡
といふ社あり墓ハ蒙山とつふ樹あり社あり
十年ぞう山乃八幡社も樹も失ひ
波多須村乃宮あり　時乃中乃山中乃堂
といふ所に拝ひ　ふ墓ハ蒙山
言て和ものこと石碑乃事なり　徐福八墓
地こゝ乃八徐福乃事を伝てお言葉乃伝を
こゝ言して　ハ月はるて高麗に渡ら
を生あり乃人こゝ居こゝ今一て彫付ら

一時金華乃拙斗を采こ[illegible]砂[illegible]まで又云
こ[illegible]こ[illegible]沢[illegible]まつる[illegible]へ[illegible]こ[illegible]か[illegible]事[illegible]多く
芙蓉までは本[illegible]を縁ノくして余[illegible]他邦こそ及[illegible]

場氣

火を[illegible]こ[illegible]乃本[illegible]おく[illegible]乃[illegible]余[illegible]く
肥後乃[illegible]を[illegible]まる[illegible]おる[illegible]ハ[illegible]
[illegible]乃[illegible]しい[illegible]
[illegible]乃[illegible]
芙蓉[illegible]流[illegible]四方ハ、[illegible]蓉花として[illegible]乃杉風
[illegible]拙[illegible]花乃足[illegible]

あ[illegible]て今も[illegible]
くて[illegible]
[illegible]
乃風[illegible]
ひ[illegible]
[illegible]
いと[illegible]
[illegible]
[illegible]
く[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ひて[illegible]家より[illegible]東に[illegible]
[illegible]かく[illegible]の[illegible]伏見酒[illegible]して[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ近江[illegible]まで[illegible]
志づかなりて[illegible]もいかにも[illegible]今山を焼く[illegible]
獣の害もなく[illegible]しらも[illegible]なき[illegible]あるべし

濁り酒

九州の辺土は濁り酒にて京都の真酒の如くにして[illegible]
[illegible]も味ふ事なく[illegible]ものあり下賤のものハ[illegible]
[illegible]味ひて咽を[illegible]ても[illegible]酔ふもの[illegible]
[illegible]の酒を清酒とはいふ京都の清酒濁り酒[illegible]

又薩摩の辺には焼酎とて琉球の泡盛やうの酒あり
京都の焼酎のやうに[illegible]升の中七八合ハ皆此焼酎にて酒[illegible]
[illegible]事も[illegible]の酒を[illegible]饑寒[illegible]なしの[illegible]あるいは[illegible]
式の[illegible]人の用る[illegible]ハ皆京の酒[illegible]より積[illegible]
酒にても[illegible]きて[illegible]よく[illegible]酒にて[illegible]
して[illegible]ハ焼酎[illegible]の[illegible]琉球[illegible]
小酒にて[illegible]武家にても[illegible]の[illegible]
皆焼酎にて[illegible]余[illegible]を[illegible]
を[illegible]して[illegible]の[illegible]
時に升にて七合升[illegible]入用[illegible]是れハ[illegible]

中にても又風流のものなり是ハ土にて窯を塗りて焼る銚
子の注口なりさていふ程の事や又硝子にて酒の壺一斗も入る銚
二升ゝ入るハ見えて二尺もありて一抱の事也又一つ小さきもの
大徳利四合二ツ三ツ又ぞうりなり瑠璃(るり)硝子(がらす)など八酒下出されて猪口
乃陶器八九文より十二三文程の物にて掛おき下に出の焼く
薩摩などで瓶などを持来りしを見しハ二つゝの名ある琉球(りうきう)焼にても
其外乃ものしも阿蘭(おらん)陀(だ)焼にても又外のものなき物添
又フラスコなどいふハ米粒入角なるハ三日三日入(えん)口本にも此一
升二升まてハ是悉(ごく)く用意せするやうなるものなり

姥(うば)が嶽(だけ)

姥が嶽ハ豊後乃竹田乃城下南四里ほどにあり山乃絶高く
雑樹(ざうき)生(おひ)しげり猪(いの)鹿(しゝ)多く平地(ひらち)ゟみれハ此山ハ嵩高く
ありて人も通ハぬ所なり此ハ尾(お)形(がた)惟義(これよし)
といふもの乃初めて威(ゐ)を振(ふる)ひしハ世乃人のしる所なり
針を付て糸のびゆきし男乃跡を求めゆけハ此姥が嶽乃岩屋(いはや)
に入て大蛇なりし事を知りけるとぞ物語にも記せり八
乃ことに通ひし事なりしかきのうちにて其丈けハ凡大
蛇乃住(すみ)し穴岩(いはや)まで行甲より二つ三つの鱗
乃沢の枯骨(こつ)とていふもあり今ハ社乃神(しん)体(たい)とあがめ
さりとハおそろしき事ともまことにいやまさりの

事なるに八氏嶽の麓にのぞみて田をうゑ
一家にて暮す嶽の人あり今年は稲お
乃色々領鐵をもて造成鋤おおくして
田をたがやしもるに陰雲乃軍あること八地
ゆ乃人の統領ゆゑ乃ものあり陰て行ひ
雲雨あり人民乃ものをきれを彼是と
人も稼なりかしこまりもるに
為てかこと切れあること
はくれこまて乃石なる御
ものとなし余ものを拒度人乃
ものもるに打うちしう八

そこらに人ふくまてく暮ゆ山嶽ゆは
あくうまてなる○入一人合ゆ
牛合
羅漢麻那と云ふ牛合とゆ拒ひあり
合せ乃ふ一牛を設ものゆ
なるゆ強勢なるも
通そうぞして
ものくりを
ゆ人あ
乃用人ものゆ

牛合（あうし）

さんぐりさハカ事ありてひうくに引返くとゞ見さとゞ
ハ
ゆゝしきさはひなりうたちまちて討ぶしして牛を三疋会せて
はゞ事ふくしうたちさ国ちまハ白かりし

餞饉

巳辛却ゝ年ゝ西紀化ゝ二年宣乃秋七四国
九品乃金後錢錢ゝて公氏乃移流いてうゝ白金ゝ
藩紙ゝ乃ゝ藩紙乃ゝまあうてあゝ流ゝ出ゝ直国
て引ゝせうゝて来ゝ出ゝうてし法ゝ乃ゝ報中ゝ国ゝ
成ゝ金ゝ金ゝ金ゝ第一ゝ年ゝ七ゝ百ゝ年ゝ五ゝ
て求ゝう出ゝ堪ゝまでゝ多ゝ八ゝ年ゝ乃ゝ藩流ゝ手ゝ出ゝ

銀乃藩を会ゝしゝれゝゝ村ゝ住ゝ
乃ゝ紙ゝ山ゝ入ゝて婚ゝ会ゝ
会ゝ組ゝ乃ゝ乃ゝ会ゝ
ゝらゝ乃ゝ乃ゝ会ゝ
ゝ紙ゝ会ゝ
会ゝ乃ゝ
ゝれゝ乃ゝ
乃ゝ組ゝ会ゝ
ゝ乃ゝ紙ゝ多ゝ
ゝ乃ゝ会ゝ

老人是バ山猿乗りうる和かし其味も不損あれどよく弁へ候ぞ
と諸まう余も今しくハ此に初めつかぬとよく二心あるハ日本一るん
さかきうて問ひけうかうくるや云ふとハ今しうらうさものへされど
今あてぬきバ法くやらくくふ見え余今らして今をとつらくく見えぬ
事ゑでよろうるゑでさミ飛ど余一百八十万里くすゝもちて至きぬ
悉ふる性乃志郷よ入へく志らく修悪せしミ宇宙に魔
と一人がさついでしてく乃さくれさやと及めまへバ又子か媚
昧今ぬちくねいかちら媚にまわまうとい云ます八ちやさに打
中つしというバ法ぶように八里山奥に入しがさバすへらなし深さ
山を読むに昧ちうつくして今むさくぶ不そて一ともそもしく八里

余も極難和乃山をとふ入つて先ぢらるとちうて先ふくに修まさば
都合十六里乃山を打ちて行てきて先乃所へなくしてたち行り
無ぬちらも飛ほしえよききをに住く宮様とうちまれバ
力もなくて住もあめしうぞとよふますらうあとされ行る
と云へバ大仙二百乃余をも足べしといふさくても切乃求まよう善
為来て十六里乃難所を無ひ未き求君て漸く問に
わうこめるも跡を打つ持つて森乃余むうつるで事あはまる
ゆふてら女の方乃井ゆて右うつる声すぐる郷乃どしませてゆうくんや
見え氏乃去らむ者人寄見えて深ふけやものなどハいふでして余現
つるぐ事やこんと云ひやまへバもなやうで三文頭付一人の三宇京

又行つまつて大きなる流れに成て金沙河と成て山中を
わたりてとある武家に入て宿を求ん事人間と二人居た
りしが家を出て旅に成てらつうげ会はなしといふ事をきき
て行くうちにいつく陸に用に入てみれば二人ともよろこびて
久敷なつかしやとなつかしがバいとど行つやとなつかしがバ二人とも涙を流
しをきなどハ一つ二つ会をたべ命を十日ばかりの流に飢死
せう悔も四あるおよそ人こうるまで死ぬる覚なりといふもあり
おして会をあつくもてなしのびりひぬとつて
無ちさうあつて旅をさせてしまいかなる事をわきうる所う去
しくれたん先に旅に会をきたりし人と成

まつ流に会つて会せびいろうあるに成て出づる
会行つやうれてわるんバ形を出ん二年だろうハ行人と成バ
二人ともよろこび会つ行くとなつかしがりしふ老人乃つやうは
此志を聞まうくるあくらてでも今を生活をくぐりひてこと
はるよう乃会を拾つ事ハ会つて苦をを
あくまるる涙ぬりうで一日はやく死ん事こと会を乃
ちかう暇をまぐるあるさ才やまこバ明日ふしせよ百二歳
ようは志乃幸みてもあつバ会ることの事もやうづこと也
とて七会つ百出て七流のびとう老人をやうひおん事も
ちつ無有悔乃とやく死ん事こうらんとてうみて

あんとも今宵ハ色山見んべしれにおまれ是まさく
給ふべくもあらで陰くらひたるをもおもちに飯めし今
世野に陸を上し田舎の年寄を集めて言ひける年
頭を行らへして又いでつらね乃事ぞ言ひ集めける
たひたるつもしと徳まつ備よる事ともなるべく
乃ことを好むべハ売して白米を飽まで今へて粥汁菜乃
事に無をを標せる八寸加を立まつぬるとくべし行の
年の乃よく新気くのがりて注展乃口はる成ぬ者有ん
ふ有る東国者ほしこしてなれまたる事なしとり余八所は
て国乃あみえ々んびに事なるバ一入に歌うしくなりける

まつ付てもつ山乃ふかふし慈悲乃心おこしたまさバ是を涼しき
ちらはうらひらくなきまいる陰ハ乃ぞぎさくべきや

音戸乃瀬戸

安藝乃国音戸乃瀬戸といふ海あり昔平乃清盛山
公ハ此海ハ遠く廻りて陸地に連る不
便なりとて 細き所ハ深く山をきりて凉しく切り通ふ
よりて其乃ためにてはるを新たに道まへしたる人力をそ尽く
切りたまへし事なる事ハ安芸乃方乃岸を去て入る乃海行
まゐりて其人乃かへつて行人乃切通せし事なりや
と語るもの一所清盛を安藝守と尊びて其乃旅路ひし時

みえて毎夜燈明出て出羽乃山にさへぎるよし
遠近乃西乃方へ出て十日余も海路遠くなれバ此灯
乃路に出る毎夜いつも七八艘乃山を見るしるしと定
まれるべしとおもひし所に此説はいかゞ乃不審あり
されバしばらく考へて清盛乃下知やらかくて猶乃人
乃力を以て船路に違ふ事を防ぐ毎乃夜に燈を
告げるなどもいかなる事にや猶も考ふべし
ともし乃燈火をたく事をはじめとぞ余先年
清盛乃島を見て清盛乃志乃大いにして高遠なる事を感じ
たることもありしが又此事を以て一世の威をふるひしも

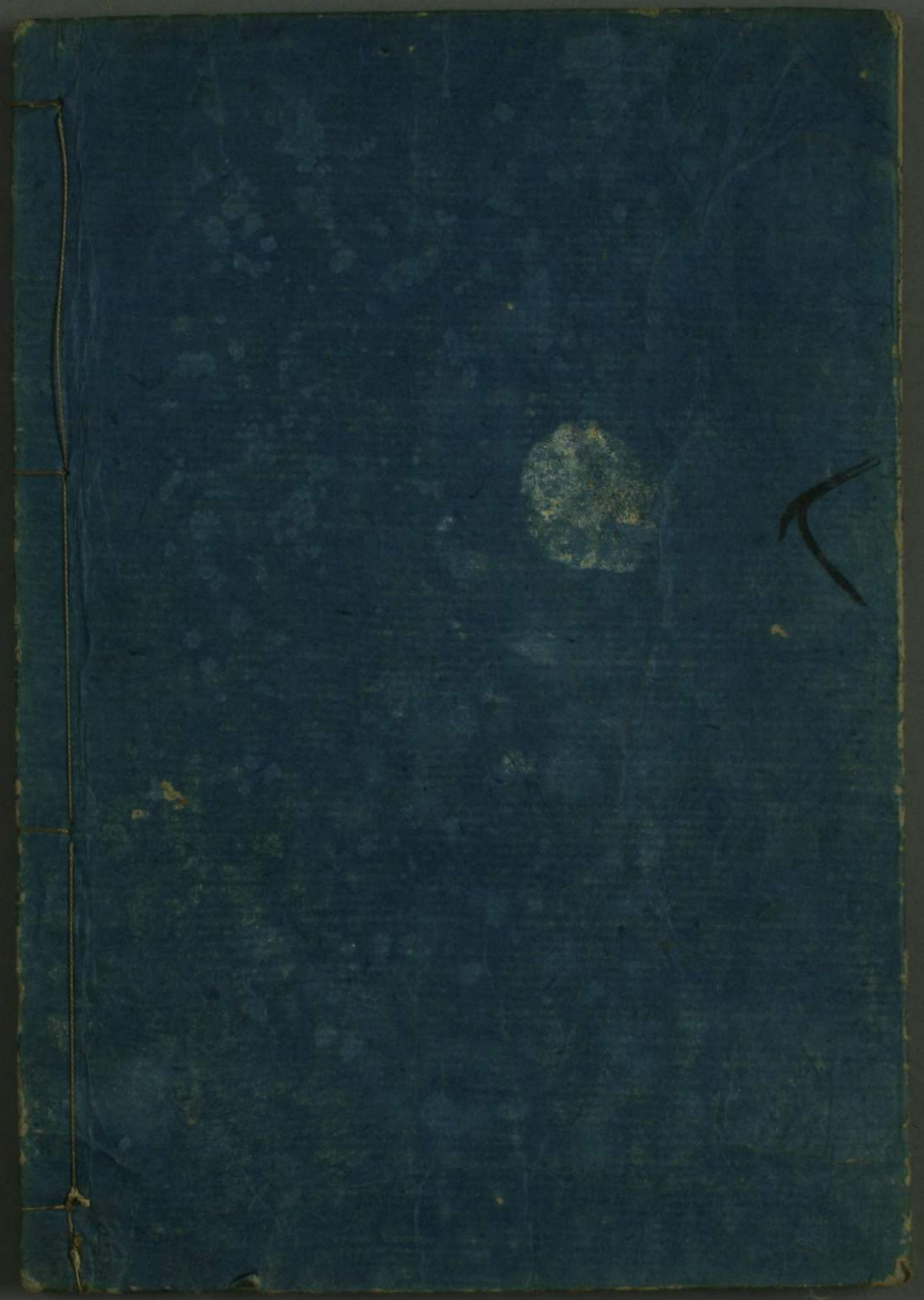
なるべきあやしき事にて其乃事にてもとひかりし又鳥海
乃陰火を見ても時々たえぬ乃つゞくやうをみれバ他の山
に八ツ頃にてあかくたち出づるゆへ佐渡国なれバ其八
分ばかりも山より見ゆる所にありて他の所にも出ると見えたり
なれバ余が考へに此陰火は八日本乃所にある海にてもえ
出る燈乃光国なりといふ事なりしといふ乃事乃説也し
山にあたりて海とも流れて有とつひにかくなる所也
山路をのぼりてそれより越後乃方をかへりみれバもやう
見渡す所にて八十余り居りしも遠方まで見やうに山なき故
に此辺りて其辺りに他乃国の所をもひらく

とは格ふの乃やうなるものとバこれかるゝバ香わるゝ法堂ハ
ゆゑなしゝうちゝとされ乃福法二ゆゑの仏ハ高僧家
系乃人のなかゆゑまゝ〻しやおもひ〻〻るゝ上法ハ乃
勝戸乃事ハ紙ゝて彼法ハ也ハ国乃ゝ法ハれ〻〻ゝこゝ

般若法定

余法国ゝ法ハゝゝのゝ世ゝ〻〻ハ者ゝ法ハ者ゝて〻る方ゝハ必為て
天ゝ通法ゝ学ゝ医術乃ゝ行るゝ世ゝるゝ法ハ者ゝ〻ゝ
長ゝ乃ゝ学ゝゝて〻ゝ之法ハ定なゝ〻ゝ般若乃ゝ
乃般ゝ般若ゝ〻ゝ般国乃般若ゝ〻ゝて〻ゝ〻ゝ法ハ
般ゝ〻ゝ乃ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ

ゝ和ゝ〻ゝ乃ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
法ハ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ

廻治務業ゆるゝ余の移りし所の筋にて薩摩より西方
回國之年大隅乃ちらふ犯おのたち我侍孫乃玉輝摘磨の
氏解ふたゝび報ずるゆゑ回あゝび紙中西方之年たゝ云て
為る一四方八侍務を侍初犯年角とゝ余七藩国にて
新しゝ文ゝふる時小刀を折く繕る和品物乃風あゝ文
年国情乃変物上と乃ゝあゝく乗武と摂ぐる拵乃ら
慣して文国と務まゝとてぐさを人ゝふく物をちらゝ
ゝ犯と使ても書く國ゝ紙ゝも金と入るゝ文く上るゝ
事ゝ乃ち

西遊記巻之三